

特別寄稿

UTR と 過 ぎ し た 30 余 年

三 木 良 太*

Over 30 years with UTR**

Ryota MIKI

(Received: 30 September, 1995)

近畿大学原子力研究所年報 第32号 (平成7年12月) 別刷
Annual Report of Kinki University Atomic Energy Research Institute
Vol.32, p.p.1-5, December 1995

近 畿 大 学 原 子 力 研 究 所

Kinki University Atomic Energy Research Institute
3-4-1 Kowakae Higashiosaka-shi 577, Osaka JAPAN

特別寄稿



UTR と 過 ぎ し た 30 余 年

三 木 良 太*

Over 30 years with UTR**

Ryota Miki

(Received : 30 September, 1995)

平成7年3月、それまで32年お世話になった近畿大学を定年退職した。理工学総合研究所に移った最後の2年間を除いて、原子力研究所に30年も継続して勤務させていただいたのだが、その期間は文字通り一貫して近大炉 UTR との付き合いであった。顧みると数々の出来事が思い出され感無量である。実は近畿大学に移る前にも3年ほど UTR と関係があったから、通算すると34年余りにもなる。なんと人生の半分近くを UTR と共に過ごしたわけで、UTR 抜きの自分の人生は考えられないことを、退職した現在つくづく痛感している。「老兵はただ消えゆくのみ」と思っていたが、たまたま年報の編集委員から近大炉について昔のことを書くようにとの依頼があり、この機会に近大炉が誕生する前後の思い出を記すことにする。何かのご参考になれば幸いである。

東京国際見本市炉

近畿大学炉は、我国の研究用原子炉のうちでも数奇な運命をもった原子炉である。研究所の研修室に掲げられている昭和天皇皇后が UTR の炉心を覗き込んでいる写真を目にした方も多と思うが、あの写真は昭和34年5月12日、東京都中央区晴海5丁目の晴海埠頭（現在の国際貿易センター）で開催された第3回東京国際見本市のアメリカ原子力特設館に設置され、運転された近大炉の前身である東京国際見本市炉 UTR を、若き日の昭和天皇が皇后とご一緒に視察された時のものである（写真1）。小生は、たまたまこの原子炉の設置申請時から係わり合いを持つ機会に恵まれ、設置工事、解体まで担当したが、この間の事情については原子力関係者の間でもほとんど知られていないので、近大炉とは直接の関係はないが少々触れることに

*略 歴

昭和21年9月	北海道帝国大学理学部化学科卒業
昭和22年1月	東京帝国大学理工学研究所第一部に入所
昭和23年7月	日米通信社に入社
昭和34年2月	アメリカン・コマーシャル社に入社
昭和37年7月	近畿大学講師（原子力研究所勤務）
昭和38年4月	近畿大学助教授（同上）
昭和38年4月	近畿大学原子力研究所原子炉主任技術者に選任
昭和40年7月	近畿大学原子力研究所放射線取扱主任者に選任
昭和42年6月	近畿大学原子力研究所管理室長
昭和42年10月	近畿大学教授（原子力研究所）
昭和61年10月	近畿大学原子力研究所副所長
平成5年10月	近畿大学理工学総合研究所所長
平成7年3月	近畿大学定年退職
平成7年6月	近畿大学名誉教授

**University Training Reactor の略称